

地図帳から県のようにせまる

沖縄県那覇市立石嶺小学校 伊志嶺 和代

1 はじめに

子どもたちの地図帳活用能力の実態調査を試みることがある。内容は活用の基礎基本事項となる八方位、縮尺、索引活用だが、その定着度の低さに驚き、指導の工夫のあり方を見直すよい機会となった。子どもたちは他の教科書とは異なる地図帳におおに関心がある。よって、この興味・関心を持続させ、かつ活用のための基礎基本事項が身につく指導を実践、模索中である。

2 地図帳活用のための教具の工夫

八方位学習においては、「さいころゲーム」を取り入れた。用意する物はゲームシートと10面体の八方位さいころである。さいころのそれぞれの面には『八方位』とラッキー、ストップの10種類の文字が表示してある。ペアやグループで競うのだが、まずシート上に自分の基地を構え、順にさいころをふり、出た方位に1マスずつ進む。先にセンターホールにたどり着いた人が勝者となる。

「やったー南東だ。」

「お願い北西出してくれ。」勝負ゲームなので、相手



八方位さいころ

の進路つまり八方位が正確かどうかも確認していく中で、実に楽しみながら方位の認識が身につけていくさまがわかった。

その他にも「地図記号カルタ取り合戦」「索引の列棒・行棒くん」「いもで等高線」などを実践した。

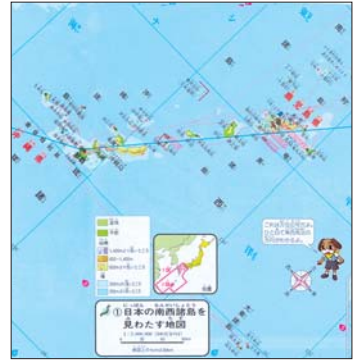
3 地図帳から県のようにせまる

県の学習の2時間目。方位から県のようにせ

まってみた。

「私たちの住む那覇市から見てどの方位に何があるだろう？」方位ゲームで自信満々な子どもたちは食い入るように地図帳を見つめ、われ先にと挙手。「西の方に夏休みに旅行した久米島がある。」「北西の方にはちゅら海水族館があるよ。」など。

「先生、東の方に大東島ってあるけど、東にある大きな島って意味だから?」「すごい、そうだね。」みんなの大歓声。「わかったぞ。その中でも



帝国書院『楽しく学ぶ小学生の地図帳』(初訂版) p.13-14

さらに北にあるから北大東島、南だから南大東島なんだね。」「八方位ってすごいね。」その後、子どもたちのリクエストでグループに分かれて県内方位当て合戦を実行。方位という視点を通して、沖縄県の位置関係や島々のようすが少しづつわかってきたようだ。

授業の終盤には「先生、那覇空港からディズニーランドまでどのくらい離れているの?」「那覇市から与那国島まではとっっても離れているんだね。実は沖縄県って広いのかな?」などの意見が出てきた。この発言から、次時は単物差しを用いた縮尺を学習する予定である。

4 おわりに

「家族で地図帳ゲームをやったよ」「ドライブの時お父さんに行き先を方位で教えたよ」「旅行の時に地図帳を持って行きたい」などと授業を進める中で、子どもたちの地図帳に対する意識がだいぶ変化していった。学習で得た知識を生活の中でも生かせるような学習指導をこれからも展開していきたい。

〈参考文献〉地図でつける基本学力 北 俊夫編 明治図書